

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないこと。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けること。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下とすること。

NITS・教職大学院・教育委員会等	実施機関名・連携機関名 福島大学大学院教職実践研究科 (教職大学院)
	事業名:【NITS・福島大学大学院コラボ研修】 学び続ける教師コミュニティ: 福島県の新たな教育実践をめざす研修プログラム
コラボ研修プログラム	<p>【2025 夏 教育実践福島ラウンドテーブル】 開催日時: 令和 7 年 8 月 8 日 (金) 10:00~16:00 開催場所: 福島大学 共通講義棟 (福島県福島市金谷川 1 番地) ※ ハイフレックス(Zoom)開催 参加人数 (総数) と参加者の属性: (172 人) 教員・現職院生 80 人, 学校管理職 9 人, 研究者 16 人, 障がい福祉関係者 6 人, 行政職・指導主事 13 人, 学部生 16 人, 大学院生 12 人, その他 20 人</p> <p>【2026 春 教育実践福島ラウンドテーブル】 開催日時: 令和 8 年 2 月 14 日 (土) 10:00~15:45 開催場所: 福島大学 共通講義棟 (福島県福島市金谷川 1 番地) ※ ハイフレックス(Zoom)開催 参加人数 (総数) と参加者の属性: (147 人) 教員・現職院生 70 人, 学校管理職 6 人, 研究者 18 人, 社会教育関係者 2 人, 行政職・指導主事 16 人, 学部生 9 人, 大学院生 6 人, その他 20 人</p>
支援事業報告書	

目的:

福島県の教育には「ふくしまの未来を創造する子どもたちの育成」が強く求められている。これに応える教員や教職志望学生には、地域と世界に視野を広げつつ、一人ひとりの成長に真摯に向き合い、不断の「対話と省察」を通じて実践に裏打ちされた独自の教育理論を構築することが不可欠である。

本事業では、専門家による基調講演で最新の知見を共有するとともに、核となる「ラウンドテーブル」において立場を超えた自由な対話の場を創出する。大学院生や現職教員による実践報告を軸に、学校関係者、行政、保護者、市民、学生が一堂に会し、成果のみならず現場の悩みや日々の気づきをありのままに語り合う。こうしたフラットな交流を通して理論と実践の往還を促し、県全体の教育力のボトムアップを図る。さらに「学び続ける教師コミュニティ」や「学び合うコミュニティ」を自律的に形成し、その歩みを県内外へ広く波及させることを目指す。

内容: ※全体発表の内容をテープ起こしするなど、具体的に記載すること。

【2025 夏 教育実践福島ラウンドテーブル】

基調講演講師: 三原 聡子氏 (独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 主任心理療法士)

講演テーマ: 「ネット・ゲーム依存の実態と予防」

内容: ネット・ゲーム依存に至るメカニズムと子供たちが置かれている状況を理解した上で、予防方法や対応方法に関する具体的な知識を得ることができる構成となっており、最新情報を多く交え示唆に富む内容であった。

ラウンドテーブル: 参加者総数 121 人 (うち報告者 40 人)、20 テーブル (対面 19、オンライン 1)

市民の参加者は、NPO 関係者、教科書会社、市民ライターなど、多様な職業や立場の方々であった。

【2026 春 教育実践福島ラウンドテーブル】

基調講演講師: 浅井 幸子氏 (東京大学大学院教育学研究科 教授)

基調講演テーマ: 「協同的で探究的な学びの実現をめざした授業研究」

内容: 明治・大正期からの授業研究の特色を概観した上で、茅ヶ崎市立浜之郷小学校にて現在行われている授業検討会を事例に、学びの共同体の授業研究について考察する構成であった。

ラウンドテーブル: 参加者総数 109 人 (うち報告者 38 人)、21 テーブル (対面 20、オンライン 1)

成果: ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記載すること。

参加者アンケートにみる基調講演、ラウンドテーブルへの満足度(4 段階)の結果 (図 1) および自由記述にみる参加者の省察の状況

【2025 夏 教育実践福島ラウンドテーブル】

基調講演: 「依存の背景にある環境や子どもの葛藤を知り、教育の根源を問い直す機会となった。」 ラウンドテーブル: 「異なる校種や学生・保護者の方との対話で、自分の無意識の偏りに気付くことができた。」

【2026 春 教育実践福島ラウンドテーブル】

基調講演: 「指導技術の是非ではなく、子どもの学びの軌跡を語り合うことの本質に気付かされた。」 ラウンドテーブル: 「忌憚なく悩みを打ち明けことができ、新たな発見や学級経営へのヒントが得られた。」

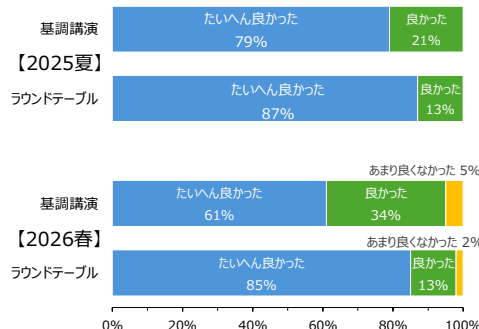


図 1 参加者アンケート結果

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

基調講演は、参加者に対して「知識の習得」を超えた「認識の転換（リフレーミング）」を促す足場づくりの役目を果たしたものと捉えている。

2025 夏における「ネット・ゲーム依存のメカニズム」に関する講演では、現象の背後にある社会・環境要因や子どもの葛藤に目を向ける重要性が共有された。依存を個人の問題として切り離すのではなく、家庭や学校の在り方を問い直すことで、教育の目的を「子どもの幸せ」という根源的な問いに結びつけ、一人ひとりの成長に寄り添う姿勢を再確認する意味合いを持つものになったと考える。

2026 春における「授業研究の在り方に対する気付き」では、従来の指導法の評価や技術の是非に留まっていた視点を省察し、「子どもの学びの事実や軌跡」を語り合うことこそが専門家としての学び合いであるという認識が、多くの参加者にとって大きな転換点となったと考える。これは、他者との比較や批判ではなく、協同的な探究によって自律的な学びが深化するという実感を伴うものであり、まさに次世代の研修が目指すべき学びの姿を体現しているものと考えている。

こうした認識の転換を、具体的実践へと繋げる役割を果たすのが「ラウンドテーブル」と捉えている。自律的に学び続ける教職員集団の構築に向けた大きな示唆は、心理的安全性が担保された場での「未完成な実践の共有」こそが、深い省察を促すという点にある。参加者のアンケート結果からも、成功事例だけでなく日々の悩みや葛藤をありのままに語り合うプロセスが「明日からの活力」を生み出していることが見て取れた。立場を超えたさまざまな越境的な対話は、教員自身の無意識の偏りに気付かせ、視点を多角化させる重要な役割を果たしたと考えている。

研修をデザインする側として、今後より強化していくべきと考える点は、立場を超えてフラットに語り合える場をホストし、個々の「個別最適な学び」が他者との関わりの中で増幅するネットワークを構築することにあると再認識した。一方で、こうしたコミュニティの熱量が、現時点では個々の参加者の意欲に依存している面があることも否定できない。自発的な学びの輪を一部の層に留めず、県全体の教育力のボトムアップへと繋げていくためには、いかにして「自分事」として捉えきれていない層へ波及させ、組織的な学びに結びつけていくかが今後の重要な課題になると考えている。

アイデアや工夫したこと： ※実際の様子がより分かるよう、必要に応じて写真や図を用いて説明すること。

- ・ 基調講演の講師選定は、県教委や市町村教委、事務局から構成される実行委員会や事後アンケートの意見をもとに行っている。参加者の関心が高いテーマで講演をいただくことができ今回も好評を得た（写真 1）。
- ・ ラウンドテーブルにおける座席配置は、参加者同士の物理的な距離感をあえてコロナ禍前の水準へと戻すよう工夫した（写真 2）。テーブルの配置や距離を近づけることで、つぶやきが自然に届き、表情の機微が伝わるような親密な空間を再構築し、身体的な実感を伴う対話の場となるよう配慮した。
- ・ テーブルのメンバー構成は、学校種・職種、経験年数、地域等が偏らないよう検討を重ねた。今年度はさらに、過去の参加履歴を詳細に照らし合わせ、可能な限りこれまであたらなかったことがない初対面の組み合わせとなるよう検討した。これによって新鮮な「越境」が生まれ、複数回参加している方からも好評を得た。
- ・ ファシリテーターには話しやすい雰囲気づくりを、参加者には傾聴と未完成な実践の共有を促すルールの確認を徹底した。また、ストラップの色による写真撮影可否の明示や個人情報保護の徹底など、昨年度までの丁寧な運用を継続した。
- ・ 報告者の事前資料配布に関して一元化を図るため、Google Apps Script を用いた Web フォームでの送付へと移行した。報告者は期限内であれば何度でも修正・再提出が可能となるよう設計したことで、これまでよりも高い利便性が好評を得た。
- ・ 案内メール送信を自動化するスクリプトを生成 AI によって構築し、事務負担を大幅に低減した（図 2）。送信プレビュー機能による誤送信防止と、個別配信のメリットを活かした詳細な案内の迅速な提供を両立させた。この仕組みは汎用性が高く、他組織での活用も期待できる。



写真 1 基調講演の様子



写真 2 ラウンドテーブルの様子

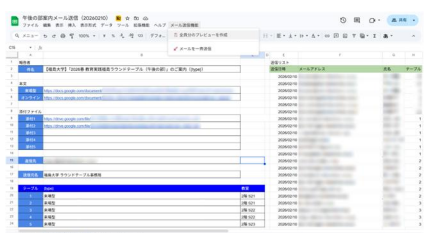


図 2 案内メール送信画面